

新聞は日々の出来事（ニュース）や新しい情報を知らせており、常に「いま」を追い続けているといってもよいでしょう。その出来事の背景は何なのか、なぜそのことが問題なのかなどは、新聞を継続してしっかり読んでいてもよく分からないことがあります。そこで、新聞社は読者の手助けになるような工夫をしています。

その1つが「キーワード」という、重要な記事に添えられた小さな記事で、記事の中の言葉や経緯を、記事から離して説明をしてくれています。もう1つがニュースの解説記事で、現在、2面に掲載されている「いちからわかる！」はその代表です。そのルーツは、2006年4月1日に始まった第3社会面の「ニュースがわからん！」で、最初の日1面「紙面から」では〈難しいニュースや、いまさら人に聞けない問題や話題を解き明かすコーナーがスタート。森の賢者、フクロウたちが、担当記者に質問する。初回は、きょうから始まる「ワンセグ」ってなに？〉でした。

その後、タイトルは「ニュースがわかる！」、この4月3日から「いちからわかる！」に変わり、〈より分かりやすくニュースを解説していきます。〉と、この日の「いちからわかる！」の文末に書かれています。

世の中の動きが速くなり、複雑な問題が増えてきている現在、新聞をよく読むことは必要で、今を解説してくれる「いちからわかる！」はA4判のノートに添付していくとよいでしょう。

(全国新聞教育研究協議会顧問・鈴木伸男)